



## 終業式で学ぶこと

本日で1学期の学習が終了しました。終業式には、両部門各学部（S部門12学年、B部門4学年）全2部門16学年の学園生が勢ぞろいし、両部門各学年の代表者に通知表を校長から手渡しました。

始業式・終業式等の式典は、大きな集団の場となりますので、学習場面としては、「個々の発達段階や特性に合わせづらい」「情報を受け止めづらい」「集中が持続しづらい」等の設定の難しさがあります。一方、校内のメンバーが一堂に会し、一体感を共有し、学園の一員である意識を培うなど、式典ならではの「学び」もあります。代表として、皆の前に立つ誇らしさ、皆に祝福される嬉しさなどを得られる貴重な場です。今後の式典では感謝状や表彰状の贈呈なども行っていきます。在学中にどの学園生も一度は皆の前で称えられる機会をもてるように、日頃の学習活動を通して輝く個性の発見と伸長に努めていきます。

## 光明学園通知表を交えた学びの振り返りを

持ち帰りました学習の記録をお子さんの前で読み上げていただき、今学期の手ごたえを分かち合ってください。学習場面を振り返り、「やり遂げた!」という達成感や「〇〇が分かった!」という自信を培えるように御支援ください。

## 夏休みを生かした「定着・応用・拡大」を

学校の先生が言う「できる」と一般社会での「できる」は異なるといわれています。学校内では、「担任の先生ならできる」、「教室でならできる」、「その教材ならできる」等、さまざまな段階の「できる」があります。言わば「教育的な視点」で一部でもできるようになった部分に着目する見方と、誰が見ても「できる」という見方の2種類あるとすることができます。

これからの夏休みは、学校で新たに獲得してきた「できる」を、どこでも・いつでも・誰とでも「できる」に汎化（はんか）していく絶好の時期です。例えば、場を変える、時を変える、人を変える（例：お母さんともできる、お父さんともできる）、物を変える（例：別のおもちゃでも遊べる）、色を変える（例：他の色でも選べる）、大きさを変える（例：小さな物でも摘める）など・・・学校で身に付けたことを、日常生活場面での定着・応用をさせていきます。時には、お出かけ先でも、その力を活用してみましょう。

こうして、どこでも使える力に強めていくことが、将来の生活の質を高め、行動や生活に幅をもたせることに繋がっていきます。

## 大先輩の残した足跡～就学猶予の悔しさを俳句に～

母体校（旧光明特別支援学校、当初の校名は光明学校）の創立期に、就学猶予を経て光明学校に入学された大先輩の俳人、花田春兆さんが5月に91歳で逝去され、多くの新聞に訃報記事が掲載されました。記事には以下の御経歴も紹介されていました。「俳人、著述業。障害者文化の研究と実践活動。1925年生まれ。出生時よりの脳性マヒにより、歩行・起立不能。言語障害あり。東京市立光明学校（現・都立光明学園）修了。友人と同人誌『しのめ』創刊。以降。角川俳句賞推薦、俳人協会全国大会賞受賞、万緑賞受賞。80年には国際障害者年推進日本協議会の副代表。82年には総理府障害者対策推進本部参与など、国の各種障害者運動に参画。総理大臣表彰・都知事表彰他。」

昭和49年に東京都が国に先駆けて行った養護学校への希望者全員就学の開始以前は、当時の養護学校への入学を希望しても選抜試験や就学猶予措置があり、多くの希望者が入学できない厳しい時代があったのです。クレヨンも買い揃えて養護学校入学を待っていたのに「就学猶予の葉書」が届き、入学できなかった悔しさを詠んだ花田さんの「就学猶予クレヨンポキポキ折って泣きし」の句には今も慟哭を覚えます。現在、そうした不安なく学校に通えることは、「すべての子供達に学校教育を受けさせたい」という多くの方々の熱意と努力があったからなのです。

## 夏季休業中の緊急連絡について

学校は夏季休業中も土日祝を除き、8:30~17:00の間は教職員が必ず常駐しています。学園生の大きな体調変化や予期せぬトラブル等がありましたら学校にお知らせください。内容に応じて担任に伝言することも可能です。尚、上記の時間外に緊急連絡を取る必要がある場合は、まず学校にお電話ください。それでも繋がらない場合は、各学年のPTA運営委員等を通じてPTA会長・副会長等の役員に御連絡ください。PTA会長・副会長と校長・副校長間はいつでも緊急連絡を取り合える体制をとっています。

光明学園校長 田村 康二郎

## S部門 中学部 Eグループ (野菜栽培)

1学期、中学部Eグループの生活単元学習では、なす、ピーマン、きゅうり、ゴーヤの栽培を行いました。

生徒たちの活動は野菜の苗植えから始まり、収穫できる日を楽しみに水やり、看板作り、カカシづくりなど様々な活動を行ってきました。生徒たちが手塩にかけて育てた甲斐もあり、6月からはたくさんの野菜を収穫できるようになりました。野菜の栽培を通して、野菜が育つ喜び、収穫できる喜び、食べられる喜びを生徒たちが感じることでできる活動となりました。

(S部門 中学部Eグループ 江川拓郎)

## S B部門 高等部 2年 (宿泊防災訓練)

学園初となるS・B両部門合同の宿泊防災訓練が7月7日(金)～8日(土)、一泊二日で高等部2年生を対象に実施されました。

7日は、16:00よりS棟にて、地元松原地区在住でKIPUKA代表で防災危機管理アドバイザーの早川 大様に、「災害とは?避難所とはどのような場所か?」と題した講演をしていただきました。

17:00を過ぎたころ、緊急地震速報が鳴り、地震を想定した緊急時対応訓練を実施しました。続いて、危険物が散乱した校舎棟から寄宿舎棟への避難訓練を行いました。

寄宿舎では男女別に分かれて避難所設営訓練を行い、さらに備蓄食料を利用した喫食訓練を行いました。停電時を想定しカンテラの光で生活するなど、2日間様々な訓練を実施し、生徒は様々な体験ができたと思います。(S部門 高等部主幹 長 雅洋)

7月4日(火)に東京ドームシティにある「宇宙ミュージアムTeNQ」に行ってきました。

行きのバスの中では、期待に気分が高まり、自然に歌っているように声を出している生徒もいました。

TeNQでは、まず、プロジェクションマッピングや、迫力のある「シアター宙」等の映像をみんなで見ました。身体が自然に前に出してしまうほどみんな注目していて、とても楽しそうでした。展示を見学したり、月面で集合写真を撮ったりして、宇宙や星を堪能してきました。

## S部門 高等部 Bグループ (校外学習)

帰りのバスでは、楽しかった余韻を楽しんだり、疲れて休憩していたり……。訪問の生徒を含め9名全員で行くことができ、楽しい思い出ができました。

(S部門 高等部Bグループ 吉原妙子)

## B部門 そよ風分教室 (ミュージックシェアリング)

6月22日(木)に、そよ風分教室で、ミュージックシェアリングによる五嶋みどりさんのヴァイオリンコンサートが行われました。

初めて聴く曲がたくさんありましたが、小学生から高校生までの全員が、その素晴らしい音色に、驚くほど静かにじっと聴き入りました。

コンサートでは演奏だけでなく、ヴァイオリンの弓はどんな動物の毛でできているか、どうやって音を出すのかなどの説明や、曲についての解説もいただきました。分かりやすいお話に、低学年の児童も身を乗り出すようにして聞いていました。質問コーナーでは、「毎日、どのくらい練習しますか?」(1日5時間くらいです)「ヴァイオリンはいくらくらいですか?」(家を買うくらいです)など、一つ一つの質問に、笑顔で丁寧に答えくださり、その答えに驚きの声があがりました。

素晴らしい演奏者による今回のコンサートは、みんなの心に素敵な余韻を残してくれました。

(B部門 そよ風分教室 近藤味規)

## S部門 小学部5・6年生 移動教室

6月29・30日、S部門小学部5・6年生は、移動教室に行ってきました。事前学習を積み重ね、一人一人が目標に向かい、楽しい思い出を作る事が出来ました。

6年生は、なんと、訪問生を含む全員が宿泊する事が出来ました。5年生も自分の目標に向かって頑張りました。大きなお風呂も宿泊部屋も、友達と一緒にいるだけでワクワクしてくる、楽しい気持ちが伝わってくる一泊二日でした。(S部門 小学部 香川美紗)

(S C)